

- 1 趣 旨 東北中学校体育大会において、自然災害及び緊急事態（重大事故及び食中毒及び感染症、弾道ミサイルの発射等）が発生した場合の対応方法を具体的に示す。
- 2 目 的 自然災害及び緊急事態発生に関しては、大会運営者だけでは対応しきれないものもある。主宰者である東北中学校体育連盟、東北関係競技団体や開催県教育委員会と連携をとりながら進め、適切に対応することを目的とする。
- 3 内 容 自然災害及び緊急事態（重大事故、死亡事故及び後遺症発生事故、及び食中毒及び感染症、弾道ミサイル発射他）
- 4 方 法 自然災害及び緊急事態発生の際は、開催競技実行委員会が連絡対応の窓口として対応する。
- 5 大会運営の基本
 - (1) 原則 東北代表を決定することを原則とする。
 - (2) 最終判断 最終判断は開催県会長が行う。
 - (3) 予備日設定 予備日の設定及び順延は最大2日とする。
 - (4) 大会の成立 災害、緊急時対等で参加不可の学校があった場合は、開催競技実行委員会、開催県中体連で協議し、開催県会長が開催・延期・中止の決定をする。決定した内容については、速やかに東北中学校体育連盟に報告をする。
- 6 具体的対応
 - (1) 自然災害
 - ①大規模な災害（地震、津波、巨大台風、噴火等）に関しては、その規模、警戒レベル等に応じ、実行委員会と開催県中体連が連携し、対応を検討する。状況によっては対策本部を設置し、関連機関との連携を図りながら検討する。
 - ②通常自然災害（降雨台風等）に関しては、開催県会長が競技実施の判断を行う。
 - (2) 重大事故
 - ①緊急疾患特に心停止、呼吸停止に関しては、初期対応を事故発生現場で関係団体が行う。AEDは必ず確保し、対応できる体制にする。
 - ②事件・事故による死亡、後遺症の恐れのある事故については、実行委員会から関係機関への連絡を速やかに進める。
 - (3) 食中毒（O157・ノロウイルス等）

食中毒発生の時間と場所によるが、原則として保健所・病院と連絡をとり、その指示指導を受ける。

(4) 感染症（麻疹・新型インフルエンザ、新型コロナウイルス）

【新型コロナウイルス対応ガイドライン】に沿って、検温、健康チェックシートの提出等の感染症対策を行う。

発症 ・発熱と発疹等の症状の場合は直ぐ病院に搬送する。発症が確認された時点で感染拡大を防ぐ意味で出席停止（出場停止）扱いとする。

・発症した選手の同県、同宿泊所の選手の症状を確認するよう監督に連絡する。

(5) 弾道ミサイル発射への対応

①大会直前（前日の下校後から大会当日の朝までの間）にJアラートがなった場合の対応

◎領海外にミサイルが落下した場合 → 予定通り大会を実施

※上位大会の予選を兼ねない大会であり、さらに終了時間に大きく影響するような状況の場合、競技を再開せず、「中止」とすることもあり得る。

◎領海内にミサイルが落下した場合 → ・競技の中断、安全が確保されるまで待機

※ミサイル着弾の場所、被害の状況、国の対応や国際情勢を踏まえながら、関係機関と相談の上判断し、参加チームへ連絡する。

②大会中にJアラートがなった場合への対応

・競技を中断し、近隣の建物へ避難する。物陰に身を隠すか地面に伏せ、頭部を守る。

7 報道対応 各県教育委員会と連絡を取り合い、その対応について協議する。

8 大会の実施が困難な場合の対応

自然災害や感染症の流行、ミサイル発射等により、東北大会の開催が難しい状況に陥った場合は、以下のように対応する。

(1) 大震災や大津波等、ミサイルの領土内の落下等、社会に重大な影響をおよぼす災害が起こった場合は、全国大会の出場権の如何を問わず、大会を即刻中止する。

(2) 開催地の変更や順延等の対応が難しい状況の中、全国大会出場校、出場選手を決定する方法として、以下のように対応する。

方法1 各県の代表を団体戦は1位のみ、個人戦は2位までを招集し、試合を行い、全国大会出場校、出場選手を決定する。(短縮ポイントでの試合もあり得る)

方法2 選手の招集ができない場合は、各県の1位の中から、東北中学校バドミントン専門部および部会長の責任による厳正な抽選により全国大会出場校、出場選手を決定する。

(3) 一部の県だけが参加できない状況になった場合、以下の原則のもと、対応する。

①2県3チーム以上（個人戦は2県以上）の参加があれば、大会は成立するものとする。

②男子種目、または女子種目のみの開催もあり得る。